

その笑顔、ひとりひとりが宝物。

Smile

2023年 8 月号

vol.688

P2

地域のふれあい活動紹介

P3

「55年の発掘と褒賞—第2期—」農業大賞に安田大樹さん

P4-7

受賞者の紹介



INDEX

08・09.....安曇野豊穰営農メモ

10・11.....ほっとレポート

12.....すまいる情報チャンネル

13.....あしたへのあんしん

14・15.....うれし楽し交流広場

※表紙写真 「第49回かかし祭り」の虹マス掴みどりに参加した横井煌士くん

地域のふれあい活動紹介

～組合員の拠り所として機能発揮～

ふれあいセンターは組合員の拠り所として、地域に寄り添い、地域の特性を活かした組織活動を行っています。このページでは、各ふれあいセンターで展開している活動の一部をご紹介します。

北穂高・西穂高ふれあいセンター

両地区のJAあづみ女性部員らと連携し農産物の直売会を行っています。

両ふれあいセンターでは、オープンから農産物などの直売会を継続し、地域の食や暮らしを支えています。

この時期は、部員らが育てたズッキーニやレタス、きゅうり、ピーマンなどの夏野菜をメインに、花きも販売しています。

北穂高ふれあいセンターは毎週水曜日(11月中旬頃まで)、西穂高ふれあいセンターは毎週月曜日(10月下旬まで)に新鮮な農産物などを販売します。販売開始は9時からです。



▲女性部員が育てた旬の農産物を直売し、来場者との対話を楽しみました



三田ふれあいセンター



▲タオルを使った健康体操

令和4年9月から毎月開催している健康体操教室。組合員や女性部員らの間で定着しています。7月19日、女性部員を中心に約10人が参加。この日は、JA職員が講師を務めタオルを使った体操などをレクチャーし、参加者は爽やかな汗を流していました。

令和4年9月から毎月開催している健康体操教室。組合員や女性部員らの間で定着しています。7月19日、女性部員を中心に約10人が参加。この日は、JA職員が講師を務めタオルを使った体操などをレクチャーし、参加者は爽やかな汗を流していました。

南穂高ふれあいセンター

6月29日、第2回「野菜づくり講習会」を開きました。総務開発事業部福祉課が企画。組合員やJA理事ら23人が参加しました。営農指導員を講師に、夏野菜作りや秋まき野菜作りのポイントを解説。講習会后に



▲畑で生育状況を確認

は、あんしんの里「南穂高」構内にある畑で栽培されているズッキーニやきゅうりなどの生育状況を確認し、指導員に質問するなど実りある講習会となりました。

倭ふれあいセンター

体操教室、料理教室、野菜作り教室、俳句教室などオープン以来、多彩な催しで組合員から人気を集めています。

毎月、必ずイベントを実施し、毎回15人ほどの組合員や地域住民が参加します。

また、組合員の要望に応え、ふれあいセンター内でAコープ商品の販売なども行っています。

6月19日、夏バテ予防にカリカリ梅作り講習会を開き、組合員約20人が参加しました。JA職員が講師を務め、20キロの梅を漬けました。JA職員が考案したレシピも大人気でした。



▲講習会には多くの組合員が参加

上川手ふれあいセンター

JAあづみ女性部上川手支部主催のぼかし肥料作りや女性の集いを行いました。女性の集いでは、営農指導会を企画。水稲や野菜を生産するJA職員を講師に、独自の発想による営農指導が参加者に好評でした。



明盛ふれあいセンター

7月5日、バランスボール講習会を開き、組合員ら約10人が参加しました。この日は、中信健康友の会の会員を講師に、バランスボールを使ったエクササイズを楽しみました。



高家ふれあいセンター

3月にふれあいデー、5月にはJAあづみ女性部高家支部によるぼかし肥料作りを行いました。毎年恒例となっているふれあいデーでは、組合員へ日頃の感謝を込めて粗品をプレゼントしたほか、育苗講習会



などをおこない、多くの来場者で賑わいました。

奈川ふれあいセンター

5月24日、おまんじゅうと簡単漬物講習会を開き、組合員ら17人が参加しました。JA職員を講師に、地粉を使った蒸し饅頭とAコープ商品を使った簡単漬物作りを行いました。



※なお、大野川ふれあいセンターでは11月5日にりんごなどの農産物や生活用品を販売する「大野川ふれあい祭り」を開催する予定です。各ふれあいセンターで展開している活動の詳細については、各支所くみあい員課までお問合せ下さい。

JAあづみ創立60周年記念企画

農業大賞に安田大樹さん

55年目の発掘と褒賞
〜第2期〜

安曇野の大地への愛と誇りを

【研究開発賞】 やまがた あつし 山縣 敦さん
【未来開拓賞】 ふるた ぜん 古田 然さん
【審査員特別賞】 いぬま とわ 飯沼 永遠さん

第2期審査会

4時間を超える審査で決定

JAあづみ創立60周年記念企画「55年目の発掘と褒賞〜第2期〜」の審査会が6月7日、広域営農センターで行われ「農業大賞」など4つの賞の受賞者を決めました。

この褒賞は、同JA創立55周年を代表する目玉イベントとして企画し、令和4年度までの3年間にわたり実施しました。凄腕の農業者を世に送り出したことで組合員から好評を得ましたが、発掘人材はまだ多く残されていることから「第2期」として、3年後の創立60周年まで継続します。「たゆまぬ研究による著しい成果と功績をあげた農業者、安曇野の郷土の農業に挑戦する後継者、安曇野で農業を営む暮らしを始めた新たな担い手」など幅広い世代層にスポットをあてることで、安曇野の今後の農業振興に繋げていくことを目的とし、受賞者には毎年褒賞を授与します。（授賞式についてはスマイル7月号を参照いただくか、下記を読み取りご確認をお願いいたします）



スマイル7月号

「農業大賞」は肥料、種子、作型等の分野で改良の著しい成果を上げた農業者が対象。「研究開発賞」は、激減する後継者の時代にあって、農業の大切さを認識し、意欲的に研究と挑戦に励む志の高い若い世代の者。数年後、地域の担い手として活躍が見込める農業者が対象。「未来開拓賞」は、ターゲなどで新規就農を始めた農業者をそれぞれ対象として候補者を他薦により募集していました。

募集期間中に合計13人の推薦がありました。この日は、各候補者の資料を基に外部審査員やJA役職員で構成する審査委員会で4時間を超える厳正な審議が行われ、農業大賞に安田大樹さん、研究開発賞に山縣敦さん、未来開拓賞に古田然さんのほか、「審査員特別賞」には飯沼永遠さんをそれぞれ選出しました。

審査委員長を務めた映画監督の河崎義祐さんは「プレゼンターが情熱的で真剣。農業者と同じ志を持って発言していることが嬉しい」と話しました。

次のページからは受賞者と受賞のポイントについて詳しく紹介します。



▲プレゼンター(中央)の熱弁に耳を傾ける審査員ら

【農業大賞】

安田 大樹さん

農林水産大臣賞を受賞

受賞のポイント

～「摘芯」の実践による品質と 収量向上の努力と技術～

就農当時は水稻が中心でしたが、社会情勢の変化から米は契約栽培に絞り、残りを麦・大豆に転換しました。平成23年、地区でいち早く大豆栽培を始めました。当初は連作や倒伏による品質低下が顕著で、品質と収量の確保に苦労したそうです。

そこで、県内でも導入例の少ない大豆の摘芯による倒伏防止技術を実践し、品質と収量の向上に努めました。大豆の摘芯栽培は、成長点を刈払機で切除し、主茎が伸びるのを抑え、側枝の成長を促進させることで側枝の着莢数が増えるとともに、倒れにくくなります。一方、作業は7月下旬～8月上旬の開花期前に行うため、肉体的に相当な負荷がかかります。安田さんは「なるべくやりたくはないが、この作業で品質と収量が担保される」と手応えを感じています。

大豆栽培の努力が実り今年の5月、第51回全国豆類経営改善共励会(JA全中・JA新聞連主催)の「大豆家族経営の部」で、最高位の農林水産大臣賞を受賞されました。開花期前に全圃場で「摘芯」をして倒伏防止と品質と収量の向上に努め、令和4年産の10^a当たりの収量が全国平均の2倍、339^{kg}を達成したことが評価されました。

受賞を受けて安田さんは「純粋に嬉しい。これも一つ一つの課題を一緒に考えてくれた各関係機関と先輩農家の皆様のおかげだと思う。これからも情報を集め、現状に満足することなく良質な大豆を作り続けたい」と話しました。

両親と妻の4人で水稻15ha、大豆の二毛作8ha、大麦単作2haなど土地利用型作物を中心に栽培しています。実家からの規模縮小の連絡を機に、26歳で就農しました。



▲大豆の成長点を刈払機で切除する「摘芯」栽培の取り組み

【農業大賞】・・・肥料、種子、作型等の分野で改良の著しい成果を上げた者

—第2期—

55年目の発掘と褒賞 受賞者紹介②

【研究開発賞】

山縣 敦さん

受賞のポイント

～夏秋いちご栽培の未来を見据えた
技術高位平準化の為の取り組み～

山縣さんは、生産資材などが高騰する中で、極力人件費を抑えた農業経営を目指し、作業の効率化や作業労力の軽減等を考え、様々な工夫をされています。

市場向けのソフトパック詰めDB(段ボール)出荷は、出荷荷造りである選果作業に時間を要します。その対策として、3人同時に作業ができるように工夫を施したお手製の選果所を作りました。出荷規格に沿った多様な等階級を座ったままで一挙に選別が可能で、かつ身の回りで出荷荷造りの一連の作業が完結できるように工夫がされています。

夏秋いちご栽培は、害虫アザミウマ対策が最も困難な課題です。4月下旬から、最終収穫期の12月までの約半年間、毎週1回は農薬防除が必要です。栽培期間の長い施設園芸品目の夏秋いちごは、農薬使用についても対象害虫の農薬抵抗性を意識しなければなりません。これから先20年～30年の栽培を見据えた中で、耕種的防除の技術は必要不可欠であると判断し、赤色LEDを使用した対策試験にも積極的に取り組んでいます。

また、部会組織であるJAあづみ夏秋いちご部会 市場部会長を務められ、部会員の栽培技術の高位平準化のための栽培講習会や圃場巡回の実施、取引先への販売促進など「損して得とれ」をモットーに自身の農業経営だけでなく、組織全体がレベルアップできるよう活動しています。

山縣さんは「新規就農者が入りやすい部会・組織作りをみんなで進め、10年～20年後も持続可能な作物として、地域農業の一角を担うまでに育てたい」と意気込みました。

東京生まれ東京育ちの山縣さんは、現在の奥さんと出会い、奥さんの実家である安曇野市へ移住しました。平成23年に独立し、現在は植え付け本数8,000本、総面積15aの夏秋いちごの作付けをしています。



△赤色LEDを使用した対策試験



△3人同時に選果作業ができるよう工夫

【研究開発賞】。。。激減する後継者の時代にあって、農業の大切さを認識し、意欲的に研究と挑戦に励む志の高い若い世代の者。数年後、地域の担い手として活躍が見込める者

損して得とれ

【未来開拓賞】

古田 然さん

受賞のポイント

～新しい技術、地域課題に取り組む
未来の担い手～

大学時代は、NGOでインドの農村開発に関わる中、現地の方々が奮闘する姿を見て「当事者となって地域を内側から盛り上げる生き方をしたい」と思い、農業に関心を持つようになったそうです。

卒業後は、地域や農業に関わる仕事をしたいとJA長野中央会へ就職しました。県内の産地情勢に触れる中で、当時JAあづみ青年部で役員を務めていた三郷小倉地区でりんご農家を営む岩垂和明さんと出会いました。そして、岩垂さんを含む多くの農家と交流を重ねるうちに古田さんは、「地域に根差した農業者になり、農業や地域での暮らしを自分自身が楽しむことで地域を盛り上げたい」と思いを募らせるようになりました。

ついに決心した古田さんは、4年間の在職後、安曇野市三郷小倉へ移住し、岩垂さんのもとで3年間の研修を受けつつ、地域の若手農業者と交流をする中で地域に馴染んでいきました。

独立後は、「新しい栽培技術（りんご高密度植わい化栽培）」への挑戦や「信州の環境にやさしい農産物（化学肥料50%減、化学農薬30%減及び50%減）」の取り組み、また、地域の若手生産者が中心となって営む「安曇野おぐら果樹農産」にも所属し、高齢化により管理しきれなくなった園地の管理や経営に尽力するなど地域の果樹振興に努めています。

加えて、部会やJAあづみ青壮年部などの組織活動に積極的に参加し、若手から年長者まで幅広い関係を構築しながら、日々新しい技術や地域の課題に対して前向きに取り組んでいます。



長野県飯田市の非農家の長男として生まれ、東京の大学に進学。多くの農家と交流を重ねるうちに就農を決意。現在は、りんごの「サンつがる」や「シナノスイート」「サンふじ」など7品種を1.8haの果樹園で栽培しています。



▲高密度植わい化栽培に取り組む

▽「信州の環境にやさしい農産物」への取り組み



未来につながるをつくる

【未来開拓賞】・・・Iターンなどで新規就農を始めた者



消費者を笑顔にする農作物を作る

—第2期—

55年目の発掘と褒賞 受賞者紹介④

【審査員特別賞】

飯沼 永遠さん

受賞のポイント

～自身で育てた農作物を
直売所へ出荷する農業学生～

3歳の頃から祖父や祖母と畑に出て、ニンジン抜きのお手伝いをしていたことから農業に興味を持った農業学生。現在は、チンゲン菜や水菜、コショウ、赤かぶ、二十日大根など数十種類の農作物を栽培し、種まきから収穫まで出来る作業は、自分で全て行っています。防除のための農薬も自分で選んでいます。

J Aの大型農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」の出荷者会員として登録し、農作物を日々出荷しています。収穫した野菜を、父と一緒に直売所に出荷してから学校に通うなど、真摯に農業に向き合っています。昨年は3月～12月までの間に約20品種、11,136点の農作物を出荷し、約730の会員のうち、売上点数は12位と会員らの中でも一目を置かれる存在です。

最近では、種まきの時期をズラして、長期間出荷ができるようにハウスを活用し育苗するなど工夫を重ねています。販売面でも、自分の出荷した野菜に「永遠の野菜シリーズ」の似顔絵シールを張って、陳列するなど消費者の目を意識した工夫を凝らしています。

飯沼さんは「畑を有効活用できるように、播種時期や品種などを研究していく。自分が作った野菜をみんなに食べてもらいたい」と笑顔で話しました。

(取材日：7月5日)

3歳のころから農業に関心を持った農業学生。12歳となった現在は、数十種類の農作物を栽培し、J Aの大型農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」に出荷しています。



△数十種類の農作物を育てている畑



▽「ハイジの里」へ農作物を出荷

豊かな安曇野の大地が育てる安全・安心な自然の恵み。皆さんと一緒に元気な農業をお手伝い!

果実

適期収穫を心掛けてください

今年の生育は平年よりも数日早く推移しています。各作業の遅れに注意し、適期収穫に努めましょう。梅雨の期間中は、定期的に降雨もあり灌水もそれほど必要ありませんが、高温多湿の影響により病気の多発が考えられますので、防除を徹底しましょう。

1.りんご

すでに収穫の始まっている極早生品種もありますが、シナノリップやつがるなどの早生種はこれからが収穫期となります。各品種の規格に沿って収穫を進めてください。中晩生種は見直し摘果を進め、最終着果量への調整をすすめてください。日焼けを避けるため、葉摘みなど着色管理作業はなるべく涼しい時間帯に実施しましょう。

2.梨

早生種の収穫期を迎えますので、適期収穫をお願いします。また、翌年の結果枝確保に向けて引き続き新梢誘引作業を実施してください。

3.ぶどう

ブドウエアの収穫期です。適期収穫に努めてください。大粒種は柵面の明るさを確保するために新梢管理を実施してください。

4.もも

収穫の最盛期となります。過熟にしてしまわないよう収穫を進めてください。また、晩生種は収穫に向けて着色管理に努めてください。

5.ブルーベリー

収穫作業が続きます。品種ごとの特性に注意し、適期収穫を進めてください。特に今年は果肉先行気味で過熟になりやすいため早めの収穫を心がけてください。

「コロナウイルス」の5類移行を受けて、管内にも観光客が増えてきますので、防除の際はいつにも増して通行人や車両、隣接園への飛散に注意いただきますようお願いいたします。



(宮農経済事業部果実課 小林鷹文)

そ菜

夏野菜の収穫が本格化してきました。例年ですと、高温干ばつ傾向で土壌水分が不足してくる状況です。トマトやスイートコーン、きゅうり等の作物については、土壌の渇き具合に応じて朝夕の涼しい時間に畝間灌水をお願いします。ただし、一度に多量の水を与えてしまいますと根を痛める原因となります。畝間に長時間滞水しない量を意識して灌水をお願いします。

■玉ねぎ

～育苗準備～

播種は、定植から逆算して55～60日前が適期となりますので、今月中に播種の準備を進めましょう。

管内で栽培されている主な品種は「七玉甘70」「ネオアース」です。それぞれ、9月5～10日の間の播種がおすすめです。種子量は10アルあたり6㍉、シーダーテープでは600m必要となります。

苗床用に1坪当たり完熟堆肥で10キロ、アツミン苦土石灰1キロ、

1Bそ菜苗床1キロ、BM重焼リン200グラムを施肥してください。その後、床作り(高さ10cm以上、畝幅120cm)を行います。雨等で水没しないよう高畝としてください。床作りが終了したら、雑草対策として土壌消毒剤NCSを散布します。30倍液を播種の30日前までに土壌の表面に均一に散布してください。

その後、ビニール等で7日～14日被覆をして、ガス抜き(表層の3cm位を耕起)7日～10日後に播種をしてください。

播種時期を逃したり、大苗になったりすると抽台の原因となります。草丈20～25cm、本葉4枚、1本の重量が2.5～3.5グラムの太くない苗が良質で、理想とされます。

詳しくは各地域宮農センターへご相談ください。



(豊科地域宮農センター 滝沢大介)

水稲

いよいよ出穂の時期となりました。これからの水管理と病害虫防除で収量や品質に大きく影響がでます。特に『いもち病』による減収や『カメムシ』による等級落ちが心配されます。

高品質米の生産に向け、今後の管理を行いましょー！

※出穂始め…圃場内で初めて

穂を確認した日

※出穂期……全茎数の40〜50

%出穂した日

水管理

胴割れ米は、米粒内の水分の急激な変化や登熟初期の高温で発生します。出穂期の前後3週間は稲が最も水分を必要とする時期です。この時期の水不足は、白未熟粒や胴割れ米の発生を助長し、品質低下の大きな要因となるため、出穂20日後までは常時湛水（3cm

位）を保ちましょー。

また、田面が露出し始めたら速やかに入水し、湛水状態を保つとともに、適宜水の入れ替えを行ないましょー。

それ以降は、稲刈り前の落水まで間断灌水を行ってください。早期の落水は胴割れ米の発生原因となりますので、極力収穫間際まで遅らせましょー。

カメムシ・穂いもち防除

カメムシ被害は、斑点米により等級を落とす原因となります。早生品種では必ず穂揃い期と傾穂期（穂揃いの7〜10日後）の2回、コシヒカリでは、傾穂期に防除を行いましょー。

キラップ粒剤は、出穂7日前〜出穂期の散布が効果的です。スタークル豆つぶ剤は出穂7〜10日後の散布が効果的です。薬剤によって効果を発揮する時期が違いますので、ご注意ください。

穂いもち病は出穂後、雨天の日や夕立が多いなど天候が不

順な場合に発生が心配されます。予防防除が基本となりますので、昨年発生した圃場は特に注意し被害を最小限に抑えましょー。

※収穫前、農薬によっては使用できる期限の迫っているものがあります。ラベルを十分確認してから使用ましょー。詳しくは、各地域営農センター又は各地区指導員までお問合せ下さい。



栽培日誌の提出について

2回目の水稲栽培日誌の提出期限は**8月17日（木）**までです。記入漏れがない事、特に出穂日の記入の有無を確認し、期日までに必ず提出をお願いします。安心・安全確保のために栽培日誌の提出が不可欠となります。

また、ライスセンターやカントリーエレベーター等のJA施設を利用される方は、出荷の有無に関わらず栽培日誌の提出が必要になりますので、必ず提出をお願いします。



（豊科地域営農センター 十屋光毅）

「JAを知る」テーマに研修会

6月20日

17

11

4

JAあつみ青壮年部小倉支部は、小倉ふれあいセンターで「JAを知る」をテーマに研修会を開きました。同支部は30代の農家が多く、総代や生産部会役員に選任されたが、協同組合の知識が少なく、JAへの意思反映・決定方法などを知らない盟友が多いことから企画しました。

研修会には、支部盟友やJA職員ら約30人が参加。協同組合の成り立ちやJA青年部の役割・意義を学び、JAの農産物販売方法や意思反映ルートなどについて議論を交わしました。同JAやJA長野中央会から講師を招き学習。営農経済事業部果実課の中村洋一課長から生産部会や農産物の販売方法などに

タマネギの大きさ競つ 第4回ジャンボ玉ねぎコンテスト開催

6月26日

12

15

17

豊科支所は、1支所1協同活動の一環で「第4回ジャンボ玉ねぎコンテスト」を開きました。コンテストは大相撲に見立てたユニークな企画で、生産者はエントリーシートに所属部屋名や四股名などを記載して応募。会場には出品玉ねぎがずらりと並び、横径と重量を計測しました。

栽培が盛んな玉ねぎの生産振興や産地化に繋げようと令和元年に始まりました。大きな玉ねぎ部門は主力品種ごとに順位を決めました。「甘70の部」の横綱は、豊科南穂高の堀内次郎さんの「てらごころ山」で、横径151.79ミ、重さ1224g。「ネオアースの部」では、豊科

について説明がありました。盟友からは取引先との信頼関係強化について要望があり、市場関係者が現地視察に訪れた際は、部会役員だけでなく、次代を担う担い手農家とも積極的に意見交換の場を設けると方針を示しました。

古田然支部長は「組合員はJAの構成員であり、運営者だ」という本質を理解することが大事。組織活動に参加・参画することが地域や自身に返ってくるという意識を持つべきだと感じました」と話しました。



▲意見を述べる盟友

南穂高の赤澤喜夫さんの「南南端アト太郎」が横径126.95ミ、重さ645gで横綱に選ばれました。

今回は応募対象を豊科地域全体に広げたことで、「大きな玉ねぎ部門」の出品数は前回の19点から大幅に増え、「甘70の部」に25点、「ネオアースの部」には5点の応募がありました。5点の応募があった「ユニークな形部門」では、同地域の理事や営農センター長ら審査員6人の投票で特別賞を決めました。



▲玉ねぎの大きさを計測するJA職員

生き生き塾 第13期 開講 安心社会の実現目指して

7月4日

3

4

17

組合員や地域住民が食や農業に関する学習と実践活動に取り組む講座「JAあつみ創立60周年記念」(生き活(い)き塾)の開講式を安曇野スイス村サンモリッツで開きました。第13期(令和5年7月〜7年2月)は22人が受講し、野菜づくりや協同組合活動を通じて、生き活きと元気に暮らすコツなどを学びます。

塾長を務める千國茂組合長は「安心社会の実現に向けたみなさんの学んで実践する活動に期待している」と激励しました。



▲激励する千國組合長

安曇野・松本市に支援要請 被災農家に力強い支援を

7月6・14日

11

17

4月に断続的に発生した凍霜害に見舞われた農家への支援を求める要請書を安曇野市と松本市、両市議会に提出しました。6日、千國茂組合長など4人が安曇野市役所を訪れ、太田寛市長や平林明市議会議長に宛てた要請書を手渡しました。

要請は①果樹農家へ必要な利子補給などの支援②サビ果など規格外果実の販売に必要な段階ボールなどの資材の購入経費への助成措置③収入保険制度の支援率の引き上げなどの3点について力強い支援を求めました。

太田寛市長は「本件については県とも緊密に連絡を取り合っている。要請内容を議会なども十分に検討し、対策を取っていききたい」と話しました。



▲平林議長に①に要請書を手渡す千國組合長②

優美で可憐な花 トルコギキョウ出荷始まる

7月6日

15

17

優美で可憐な花、トルコギキョウの出荷が始まりました。営農経済事業部農産課によると令和5年産は生育期の朝晩の気温の低下により、若干の生育遅れが見られます。令和5年度は部会員9人が53アに作付し、約7万本を主に首都圏や中京、関西方面の市場に11月上旬頃まで出荷する予定です。

JAあつみトルコギキョウ部会は、安曇野市堀金のそ菜特産流通センターで出荷目揃い会を開きました。部会員やJA職員ら約10人が参加。出荷最盛期を前に規格や荷造り基準、販売情勢などを確認しました。



▲出荷規格を確認する生産者ら

ユニークなかかしずらり 第49回かかし祭り盛況

7月 8-9日

組合員や地域住民への事業利用の感謝として、総合事業基地構内などで「第49回かかし祭り」を開きました。名物のかかし人気投票のほか、農業機械や園芸用品、家電製品、食料品などを特価で販売。射的やくじ引きといった子供向けの屋台も人気を集めていました。

農業者の労力を抑えるスマート農機や省力化資材などの品揃えを強化したことで、2日間の来場者は2702人(前年対比4%増)と増加、売上高は7248万円と例年並みでした。



▲名物のかかしを眺める来場者

プールの「アーリーリバー」出荷本番 熱度増し食味抜群

7月 13日

プールの早生種「アーリーリバー」の出荷本番を迎えました。松本市梓川の果実南部選果所では、JA職員が過熟やサビ、虫害、ブルームの状態などを検品した後、89パック(1パック1400g)を首都圏や県内、関西方面の市場に出荷しました。「アーリーリバー」をはじめ中生種の主力「ローブドサージエン」、晩生種「オータムキユート」など約20品種を9月中旬まで途切れなくリレー販売し、プールの全体で6万9680パック出荷する予定です。



▲検品作業をするJA職員ら

女性部マレットゴルフ交流会 優勝は有明支部の中村のり子さん

7月 13日

JAあづみ女性部は、安曇野市穂高有明にある立定マレットゴルフ場でマレットゴルフ交流会を開き、28人が参加しました。部員らの交流を深め健康促進に繋げようという企画。4人1グループに分かれ、松林の中に造られた全27ホールでプレー。離れた場所からカップインすると「ナイス」「うまいっまい」などと声援を送り合いながら、晴天のもと競技を楽しみました。

優勝は同部有明支部の中村のり子さん、上川手支部の藤原清子さんはホールインワンを達成しました。



▲優勝した中村さん(左)に景品を手渡す黒岩部長(右)

安曇野産桃初出荷 甘く食味上々

7月 14日

安曇野市三郷の小倉選果所で桃の早生種「櫛形(くしがた)」と「赤宝(せきほう)」を選果し、県内市場に初出荷しました。

令和5年産は一部の園地で春先の凍霜害の影響を受けたものの、6月中の適度な降雨により玉が大きく、7月上旬は雨が多すぎず甘みが乗り食味は上々です。

梓川地域営農センターの小林将士営農指導員は「防除の徹底を呼び掛けるとともに厳正な選別で出荷先の信頼を揺るぎないものとし、生産者の手取り確保に努めたい」と意気込んだ。



▲キズの有無などを確認するJA職員

新規栽培者向けの研修会 栽培のポイント解説

7月 18日

安曇野市で第2回(ごとう)新規栽培者向け研修会を開き、5人が参加しました。営農懇談会などで開催を望む声上がり、それらに应运り初めて企画しました。

三郷地域営農センターの西牧雅史営農指導員が講師を務め、袋掛けなどの管理作業について説明。西牧指導員は「袋に房肩がつかない程度に深めにかけて欲しい。袋の口は雨などが入らないようにしっかりと縛ることが重要」と呼び掛けました。

参加した佐藤弘康さんは「園地に来ないと知り得ない情報を収集できた」と話しました。



▲袋掛けのポイントを解説する西牧指導員(左)

「闘コーンフェスティバル」大盛況 夏の味覚が人気

7月 22-23日

大型農産物直売所「安曇野スイス村ハイジの里」で、「闘コーンフェスティバル」を開きました。旬を迎えた安曇野産トウモロコシ「ゴールドラッシュ」やキュウリ、トマトなどを販売した他、店頭特設ブースでは桃やプラムなどを大特価で販売。鮮魚を扱っている北陸豊鮮では、土用の丑の日に合わせ鰻の特売も行い、多様な催しに来場者で賑わいました。

松本市から来場した穂刈さんは「毎年、イベントに合わせてトウモロコシを買いに来ている。茹でて孫たちに食べさせたい」と笑顔で話しました。



▲トウモロコシの品定めをする来場者

糶摺り調製技術者講習会開催のお知らせ

糶摺り調製技術者講習会を下記のとおり開催いたします。また、水分計の検定も行いますので、希望される方は、当日新しい電池を入れ、記名してある水分計をご持参ください。



開催日	開催時間	会場	対象地区
8月23日(水)	9:30~10:30	有明出張所 2階会議室	有明・北穂高地区
	11:00~12:00		穂高・西穂高地区
8月24日(木)	9:00~10:00	安曇野スイス村サンモリッツ (中ホール)	豊科地区
	11:00~12:00		南穂高・上川手地区
	13:30~14:30		高家地区
	15:30~16:30	堀金支所 2階会議室	烏川・三田地区
8月25日(金)	9:00~10:00	梓川支所 2階会議室	倭・梓地区
	11:00~12:00	三郷農村環境改善センター (多目的ホール)	明盛地区
	13:30~14:30		温・小倉地区

新規就農相談会 随時開催

JA では農業従事者の高齢化や担い手の減少が進む中、次世代の安曇野の農業を担う農業後継者、新規参入者、団塊の世代から定年帰農者など多様な新規就農者を支援するため、『新規就農相談会』を随時開催しております。

ご希望の方は、営農経済事業部担い手支援室(☎72-2933)までお気軽にお問い合わせ下さい。

点検・整備・修理・レンタルにつきましては、
農業機械センター(☎73-6886)までお
気軽にごつぞ。(農業機械課)

農業機械センターでは、農繁期対応中、一
条刈りバインダーをレンタル致します。どう
ぞご利用下さい。

レンタルバインダーを
ご利用しております

いよいよ稲刈りの時期が迫ってきました。農
業機械センターでは、**9月1日(金)から9月30
日(土)まで**、日曜・祝日も休まず**農繁期対応**
として通常営業します。
(天候状況により期間を変更する場合があります)

いよいよ収穫期
農機の点検整備は万全ですか
〜農繁期対応致します〜

盆花のご購入は JA 直売所で

JA 直売所では **8月11日(金)から16日(水)まで**
お盆のお供え花を販売します。

新鮮な野菜や果物も販売しますの
で、皆様のお越しをお待ちしています。

営業日時につきましては、各直売所に
お問い合わせ下さい。



安曇野スイス村ハイジの里 ☎87-0812
あづみ野ふる里市 穂高農産物直売所
☎77-7530 ☎82-3115

農繁期用(配達灯油・軽油) 特別値下げのお知らせ

9月1日(金)~10月31日(火)まで

3円/ℓ値下げ

「秋の農繁期にご使用される米乾燥機用の灯
油・軽油」に限り、特別値下げをいたします。

生産者の皆様、是非ご利用ください。

<ご用命・お問い合わせ先>

灯油配送センター(☎0263-72-7811)

あんしん 広場

福祉相談会のお知らせ

介護についてどうすればいいか悩んでいませんか？
ひとりで抱えこまないで、
話してみましよう！

相談
無料

- 【日 時】 8月16日(水) 10時～12時
【場 所】 南穂高ふれあいセンター
(安曇野市豊科南穂高 2728-1)
【内 容】 福祉の専門家(介護支援専門員・介護福祉士)が分かりやすく相談に応じます。

【ご予約・お問い合わせ】

訪問介護事業所 ☎ 0263-72-2148
居宅介護支援事業所 ☎ 0263-87-0380

令和5年度
「あんしんセミナー」のご案内

“自分のこと、ちょっと地域の事考えよう。
拡げよう地域の助け合い！”

	月/日	曜日	演 題	講 師
4回	8月26日 午前10時～	土	幸せと達者の自給を高める冬場の野菜づくり 講師:「六季の食事学」提唱 細井千重子さん	
5回	9月30日 午前10時～	土	自分の健康を維持するために健康づくりませんか 講師:JA長野厚生連佐久総合病院地域健康管理科保健師長 杉田敏子さん 一般財団法人日本農村医学研究所 主任研究員 柳澤和也さん	

〈セミナー会場〉

地域支え合いセンターあんしん
〒399-8201 安曇野市南穂高 2728-1
参加費:各回 600円(一般 1,200円)

お申し込み・ご注文・お問い合わせ先

特定非営利活動法人
JAあづみくらしの助け合い
ネットワークあんしん
(地域支え合いセンター)
TEL.0263-71-2828
FAX.0263-88-2802

あしたへの
あんしん

毎年、敷地内になる梅は今年も豊作だったので、利用者さんとシロップ漬けを沢山作りました。暑い夏にこのシロップをジュースにしたいなどと、とても美味しく夏ハテ予防にもなります。暑い夏を乗り越えようとみんなで知恵を出し合い作業の計画を立てています。

デイサービス
あんしんの里
榎

今年も利用者さんと一緒に味噌を作りました。10キロの豆を煮て、ビニール袋



デイサービス
あんしんの里
南穂高

利用者さんと一緒に梅漬けを作りました。大きな瓶に梅と砂糖を交互に詰めて完成。原液を水で割った梅ジュースは夏ハテ防止・疲労回復に効果があると、毎日おいしく飲んでいきます。

また、七夕に向けて短冊やたくさん種類の色を混ぜたお花紙を使った壁飾り製作を行いました。きれいにできたよね」と利用者さん同士で話し合っていました。七夕には饅頭作りをしました。みなさんとても慣れた手つきで「自分で作った饅頭の出来はどうだろうか?」と心配していました。おいしく召し上がってとても満足そうでした。



年金相談室

年金の専門家（社会保険労務士または年金相談員）がわかりやすく相談に応じます。

夜間や週末も開催しております。お仕事帰りやお休みの日にもお気軽にお越し下さい。

日	時	場所
8月15日(火)	9:00~15:00	三郷支所
16日(水)	9:00~15:00	堀金支所
19日(土)	10:00~16:00	有明出張所
		穂高支所
22日(火)	9:00~15:00	倭ふれあいセンター
9月12日(火)	9:00~15:00	豊科支所
14日(木)	17:00~19:00	梓川支所
20日(水)	9:00~15:00	北穂高ふれあいセンター



シェフ 永井のおすすめ

魚介と新ジャガの スープ

「キッチン明人」の
オーナーシェフ
永井智一



材料(2人分)

新ジャガイモ	2個	オリーブ油	大さじ4
ニンニク	1片	白ワイン	大さじ2
アンチョビフィレ	1片	タイム	1本
白身魚	40g(2切れ)	水	400ml
ハマグリ	100g	塩・こしょう	適宜
切りガニ	2肩	レモンライス	2枚

作り方

- 新ジャガイモは皮をむき半分に切り下ゆでしておく。
- フライパンにオリーブ油、つぶしたニンニク、アンチョビを入れ、弱火で香りを移す。
- (2)に(1)、白身魚、ハマグリ、切りガニを入れ、中火で3、4分焼き、白ワインを振ってから水とタイムを入れ、ふたをし中火で7、8分蒸す。
- (3)に塩・こしょうを振り味を調える。皿にレモンを置き、上に具材を盛り付けスープを注ぎ出来上がり。

CROSSWORD PUZZLE パズル

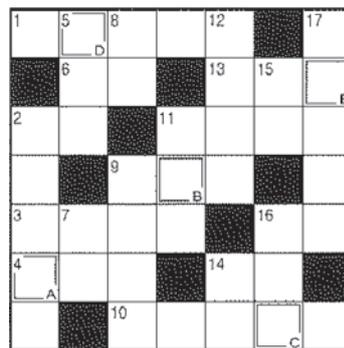
タテのカギ

- パラシュートともいいます
- 法やルールなどに背くこと
- イタリアの1つ前の通貨単位
- 「あかつき」や「白鳳」などの品種があります
- 日暮れ頃にザーッと降ります
- 読売ジャイアンツの本拠地は東京——です
- 植物に水やりをするときに使う道具
- 陰(いん)の反対語
- 毎度、バカバカしいお笑いを——
- 紙幣や貨幣を入れます
- カレンダーに「FRI」と書かれていることも

ヨコのカギ

- 京都の五山送り火で、最もよく知られた形の送り火
- エビネもカトレアもこの花の仲間
- 肥料の3要素の1つ。元素記号はK
- どのドレッシングで食べようかな
- 骨切りをする細長い魚
- イタリアの現在の通貨単位
- 山の頂上と麓の間
- 一緒に暮らしています
- 突破して決勝に進みます
- 夕空に輝く——の明星
- 歌謡曲で一番盛り上がる部分のこと

Q. 二重マスの文字をA~Eの順に並べてできる言葉は何でしょうか？



(JA広報通信より引用)

応募ハガキの記入方法

(皆様の声をお寄せ下さい)

63 399-8283 安曇野市豊科
JAあづみ総務課
四二七〇一六
マイル編集部
〒160-0001 東京都千代田区千代田
〒160-0001 東京都千代田区千代田

① クイズの答え
② 郵便番号・住所
氏名・年齢・職業
電話番号
③ JA・広報誌への
ご意見、日頃の
出来事など

応募締切
8月18日(金)必着

正解の中から抽選で3名の方に、JAまごころ商品券(1,000円分)をプレゼントします。
(毎月20日頃発送)

A.7月号の答え



解答 A B C D E
ヒ ヤ ケ ト ×

応募総数 54 通

当選者

安曇野市 岩原さん 安曇野市 宮澤さん
松本市 金井さん

かかし人気投票・スタンプラリー当選者のご紹介

7月8・9日の2日間、安曇野市堀金烏川のJA総合事業基地構内などで開催いたしました「第49回かかし祭り」にお越しいただき誠にありがとうございました。

厳正な抽選により、かかし人気投票・スタンプラリーの当選者が決定致しましたのでご紹介させていただきます。



▲厳正な抽選により当選者を決定しました

かかし人気投票当選者

【安曇野市】

水谷 様
上嶋 様
中村 様

※かかしの人気投票結果 (全367票)

1位 ちいかわ ハチワレ (44票)
2位 大谷翔平 (40票)
3位 食べよう地場産 (37票)

スタンプラリー当選者

(松本山雅観戦チケット&QUOカード)

【安曇野市】

岩波 様 宮澤 様 西澤 様 山口 様 大谷 様 齋藤 様
西村 様 務台 様 平林 様

【松本市】

矢崎 様 富永 様

【池田町】

矢口 様

【大町市】

勝野 様

※たくさんのご応募ありがとうございました。

今月の星占い



牡羊座 (3/21~4/19)

人気運に恵まれ勢いがあります。周囲の協力を得やすいので丁寧な説明を心がけて。じっくり交渉すれば大成功



天秤座 (9/23~10/23)

気になることが多くそわそわ。まずは真偽を確かめて。信頼できる人と行動を共にすれば大団円のゴールに到達



牡牛座 (4/20~5/20)

うまくいきそうで一筋縄ではいかないとき。上昇運なので焦らずじっくり進めましょう。好結果が待っています



蠍座 (10/24~11/22)

言質を取られないように気を付けて。多くを語らない方がうまくいきます。連絡は密に。友人との旅行や外出は◎



双子座 (5/21~6/21)

手厳しい指摘を受けるなどショッキングなことがあるかも。ただし反省して見直せば大きな方向転換に。転機です



射手座 (11/23~12/21)

問題はあるものの運勢は良好です。状況が明らかになることで改善へと進むはず。困難を感じる時こそ奮起を



蟹座 (6/22~7/22)

運に恵まれ順調です。気になっていたことを片付ければ気分もすっきり。友人との交流や旅行も楽しめます



山羊座 (12/22~1/19)

スロースタートですが着実に結果を出していけます。長期計画を立てるのにも好機。クオリティー重視を進めて



獅子座 (7/23~8/22)

勢いがあります。思った以上に進展が早いことも。かし取りは慎重に。信頼に応えようとする態度が大事です



水瓶座 (1/20~2/18)

対人運が活性化。良い話も悪い話も聞こえてきそう。建設的な話題に参加を。うわさ話ができるだけスルーが正解



乙女座 (8/23~9/22)

口は災いのもと。発言には気を付けましょう。言葉よりも態度で示す姿勢が吉と出ます。映画やドラマを楽しんで



魚座 (2/19~3/20)

正確で確実な作業で高評価を得られます。行き違いがあっても落ち着いて話し合いを。良い方向へと進むはず

みんなの声



新採用職員さん
の中に友人の息子さんがいました。もう、そんな年になったのかと...。何事にも負けず頑張ってくださいね!!!
(安曇野市 清澤さん)

野菜が沢山採れるようになりました。孫には地産地消の新鮮野菜だよと言いつ聞かせて食卓に出しています。
(安曇野市 一村さん)

毎年恒例のシソジュースの他に今年はハイジの里で梅を買って、梅シロップを作ってみました。氷砂糖の音を振っています。
(安曇野市 等々力さん)

コロナ禍でもイベントを開催し、楽しみと勇気を与えてくれました。今年もかかし祭りに行き、秋の新生活祭も楽しみにしています。
(松本市 木船さん)

仮決算棚卸による休業のお知らせ

令和5年8月31日(木)に休業する所は下記の通りです。

- 各地域・地区営農センター
- JAファーム みどりの店
- 資材配送センター

理事会報告

〈7月28日開催〉

- 令和4年度 部門別・場所別経営分析結果について
- 令和5年度 仮決算方針並びに日程について 他

スクラム

7月24日現在

- 直売所「安曇野スイス村ハイジの里」登録会員 / 724

JAキャッシュカードを紛失されたときは

JAバンクキャッシュカード紛失共同受付センター (365日、24時間対応) ☎ 0120-024-040

JAカードを紛失された時は

NICOS盗難・紛失受付センター (365日、24時間対応) ☎ 0120-159-674



2020 金賞 [五月晴]

JAあづみ 創立60周年記念事業

JAあづみ 2023 フォトコンテスト作品募集!!

安曇野に息づく伝統や地域農業にスポットをあてた写真を募集します

応募方法

題名、撮影場所、撮影月日、郵便番号、住所、撮影者氏名、年齢、電話番号を明記したものを作品に添付して、JAの本所、各支所・出張所、ふれあいセンター窓口へ直接提出していただくか、郵送の場合は下記までお送りください。

〒399-8283 長野県安曇野市豊科4270-6

JAあづみ総務開発事業部総務課「フォトコンテスト」係

- 入賞作品の著作権は、主催者に帰属させていただきます。(後日、フィルム、デジタルカメラの場合はデータを提出していただきます)
- 作品の返却をご希望の方は、作品に返却希望の旨を必ず明記し、送料分の切手と封筒をご同封願います。

作品の条件

- JAあづみ管内の農作業風景や伝統(文化・食・工芸・祭りなど)が含まれ、季節感のある作品。
- 未発表の写真に限ります(デジタルカメラのデータは500万画素以上で撮影されたもの)。
- 被写体に人物が登場する場合、本人に了解を得たものに限りします。
- 応募者本人が撮影したもので、四切(ワイドも可)とします。
- 応募点数はお一人様5点まで。特定の季節に偏らない作品(例:春夏秋冬 各1点)。写真1枚を1点とし、組写真は不可とします。
- 2018年9月1日以降に撮影されたものに限りします。

賞・審査

- | | |
|----------------------|----------------------------------|
| ■ 金賞(1点) 賞状・賞金(5万円) | ■ 安曇野季節賞(各季節1点ずつ計4点) 賞状・賞金(各1万円) |
| ■ 銀賞(2点) 賞状・賞金(各3万円) | ■ 市民タイムス賞(1点) 賞金(1万円) |
| ■ 銅賞(2点) 賞状・賞金(各2万円) | ■ JA共済連賞(1点) 賞金(1万円) |
| | ■ 日本農業新聞賞(1点) 賞金(1万円) |
| | ■ 農協観光賞(1点) 賞品(旅行券1万円分) |
| | ■ 佳作 商品券 |

上記の各賞は、JAが選考した審査員により決定致します。

※入賞作品はJAオリジナルカレンダー、JAあづみホームページ等に活用させていただきます。

※賞の内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

入賞発表

2023年9月下旬、入賞者に直接通知するとともに、広報誌「スマイル」、JAあづみホームページ(<http://www.ja-azumi.iijan.or.jp/>)並びに報道機関を通じ発表いたします。

【主催・お問い合わせ】 **JAあづみ** TEL.0263-72-2930 (代)

【後援】 安曇野市・松本市

【協賛】 (株)市民タイムス・全共連長野県本部・(株)日本農業新聞・(株)農協観光



フォトコンテスト 詳細



あづみ農業協同組合

- スマイル/No 688 2023年8月1日発行
- 発行人/千國 茂
- 編集/スマイル編集委員会 編集事務局/総務開発事業部総務課
〒399-8283 長野県安曇野市豊科 4270-6
- <http://www.ja-azumi.iijan.or.jp/> ●印刷/有限会社安曇印刷



JAあづみHP

SNS で旬な情報を投稿しています



MATSUMOTO Yamaga F.C.

JAあづみは松本山雅F.C.を応援しています